

中小企業が取り組むSDGs

～ビジネスチャンスを広げる持続可能な未来への第一歩～

今、世界中で注目を集める「SDGs（持続可能な開発目標）」。多くの企業が社会的責任を果たすために取り組みを進める中、中小企業にとってもこの潮流は他人事ではありません。持続可能な社会づくりへの貢献が、単に社会的意義を示すだけでなく、ビジネスチャンスの拡大や企業価値の向上に直結する時代が来ています。この記事では、中小企業でも無理なく実践できるSDGsのゴールや取り組み方を紹介し、企業の成長と社会貢献を両立させる方法について考えていきます。持続可能な未来への第一歩を、今こそ踏み出しましょう。

【参考・出典】SDGs Compass [SDGsの企業行動指針-SDGsを企業はどう活用するか-] (独) 中小機構「中小企業のSDGs推進に関する実態調査」、(公財)ひょうご産業活性化センター「SDGs推進宣言事業・認証事業」

SDGsって何?

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年に国連総会で採択された持続可能でより良い社会を実現するための国際目標です。全世界の誰一人取り残さず、環境・社会・経済等の側面から持続可能な発展を目指すことを目的としています。また、2030年までに達成すべき「17のゴール」・「169のターゲット」が設定されています。



中小企業が注目すべきSDGsのゴールと取組方法について

調査結果から、中小企業でも、SDGsに対する意識は高まっており、既に取組を始めている企業も増えてきています。次項からは、SDGsの取組方や、17のゴールの中から中小企業が取り組みやすい（自社の事業と結びつきやすい）ゴールと、その具体例について説明します。

SDGsへの取組方法

GRI・UNGC・WBCSDの3つの国際団体が共同で作成した「SDGs Compass」によるSDGsの企業行動指針」によると、SDGsを経営戦略に取り入れ、実践するためには5つのステップ（①内容理解、②優先課題の決定、③目標設定、④経営への統合、⑤報告とコミュニケーション）があると説明されています。今回は事業内容とSDGsのゴールと結びつける「Step ② 優先課題の決定」について説明します。

優先課題を決定する方法

SDGsには17の目標がありますが、企業の事業内容などによって、重視すべき目標や貢献できる程度は変わってきます。優先課題の決定は、「サプライチェーン（※1）」と「バリューチェーン（※2）」から考えることで、自社の優先課題が見つげ出すことができます。

以下は一例ですが、事業を行う過程から様々な課題や価値を見つけ、見つけた優先課題について改善（解決）に向けて実践すること、SDGsのゴールを達成することにも繋がります。

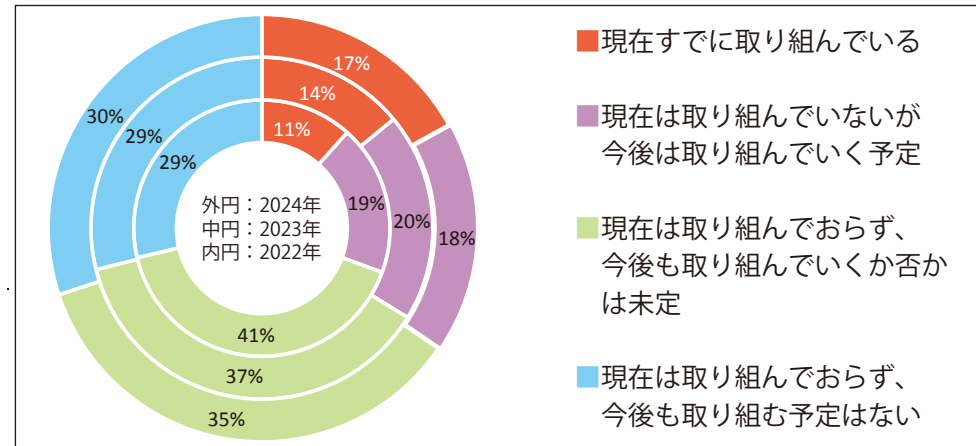
- ※1「サプライチェーン」は、原材料の供給から、最終製品の製造、流通、顧客への納品までの一連のプロセスを指します。どのように物資や製品を調達し、それらをどのように消費者に届けるかに焦点を当てています。
- ※2「バリューチェーン」は、製品やサービスが市場に提供される過程で生み出される「価値（強み）」に注目します。

また、中小企業にとってもSDGsに取り組むことは、新たなビジネスチャンスが生まれる可能性があります。例えば、環境や人に優しい製品・サービスを導入することで、顧客から支持され企業価値を高めることができ、企業イメージが向上します。一方で、取引先のニーズの変化や新興国の台頭などで、今後は、SDGsへの対応がビジネスにおける取引条件になる可能性もあり、リスクマネジメントとしても有用です。

中小企業のSDGsの取組状況

日本国内では、大企業を中心にSDGsの取組が進んでいる一方で、中小企業ではSDGs自体の認知度は高いながらも「どのように取り組めば良いか」を模索している状況が見受けられます。（独）中小企業基盤整備機構が全国の中小企業・個人事業主等の200社に対して、SDGsの理解度や取組状況等についてアンケート調査を行った結果、取組状況に

SDGsの取組状況について (図1) (n=2,000 単一回答)



については「現在すでに取り組んでいる（17.0%）」と「現在は取り組んでいないが、今後は取り組んでいく予定（17.6%）」の計34.6%の企業がSDGsに前向きに取り組むを考慮しており、その割合も年々増えていることがわかります。

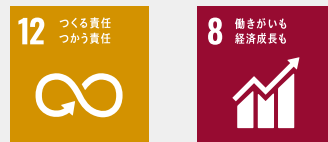
サプライチェーンを用いた課題の洗い出し例 (食品製造業)

- ①原材料の調達において、環境破壊や強制労働に関わっていないか？
- ②製造工程において、エネルギーの消費やCO2の排出量は高くないか？
- ③消費者へ届けるプロセスにおいて、燃料コストや輸送途中の損失はないか？

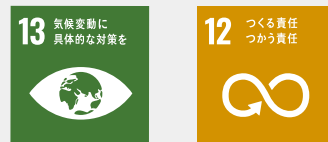
課題への改善策とSDGsの関連ゴール

- ①調達先を持続可能な農業を実践している農家に変更する、あるいはフェアトレードの製品を取り入れる。また、サプライヤーに対して労働環境改善を要求する。
- ②製造工程で再生可能エネルギーを使用する。または製造工程を見直してエネルギー効率を高める。廃棄物の再利用やリサイクルを促進し、資源の無駄を減らす。
- ③長距離輸送から近距離輸送にシフトし、地域のサプライヤーを活用する。電気自動車や燃費効率の高い輸送手段を導入することで、CO2排出を削減する。

①の関連ゴール
 目標12「つくる責任、つかう責任」：持続可能な生産と消費を確保する必要がある。
 目標8「働きがいも経済成長も」：公正で安全な労働環境を提供する必要がある。



②の関連ゴール
 目標13「気候変動に具体的な対策を」：CO2排出削減が必要。
 目標12「つくる責任、つかう責任」：廃棄物削減やリサイクル推進が必要。



③の関連ゴール
 目標9「産業と技術革新の基盤を作ろう」：インフラをより持続可能で効率的に。
 目標13「気候変動に具体的な対策を」：温室効果ガスの削減が必要。

